



国立大学法人 京都大学防災研究所 21 世紀 COE プログラム
災害学理の究明と防災学の構築
Center of Excellence for Natural Disaster Science and Disaster Reduction



京都大学防災研究所 21 世紀 COE 拠点形成の取り組み

近年、地球温暖化による気象・水象災害の激化・頻発化が懸念されます。また、21 世紀前半は地震活動期にあたり南海トラフ沿いに海溝型の巨大地震災害の発生や大都市直下地震の発生が高い確度で予想されています。わが国の安全 / 安心を脅かす自然災害発生の危険性が高まっており、早急の対応が必要となっています。

一方、社会の高度化・複雑化を反映して、自然災害の様態が極めて複雑化し、複合災害の様相を示すようになってきており、社会的インパクトが極めて大きくなってきています。そこで、京都大学防災研究所はこれまでの日本の COE から世界の COE として、巨大災害による「持続的成長」の脅威を軽減し、災害研究の成果による各種防災技術の洗練、安全 / 安心社会の実現のための基礎条件の明示および災害に粘り強い地域コミュニティの形成に貢献することが必要になっています。

そこで、防災研究所では全所的な取り組みとして、文部科学省高等教育局の事業である 21 世紀 COE 拠点形成プロジェクトに応募し、平成 14 年度に京都大学で認定された 11 拠点の 1 つとして「学際・複合・新領域 Center of Excellence(COE)」分野で認定されました。

平成 14 年度の事業計画より

主要な事業概要

研究拠点形成に際してもっとも大切なのは、COE として何を目標として活動するかということです。これについては、防災研究所が 2001 年まで COE として活動してきた実績に鑑み、「日本の COE から世界の COE へ」を目標として掲げました。それを受けて COE 拠点の目的として、研究拠点として自然現象としての災害と社会現象としての災害の両側面について「災害学理を究明」する一方、その成果を広く社会に還元し、災害による被害低減に資する枠組みを確立するという「防災学の構築」とを結びつけました。具体的な事業内容として、(1) 社会の防災ニーズを的確に反映した学際融合的防災研究を推進し、(2) 若手研究員との共同研究を通じた人材育成を実施して、研究成果の共有と情報発信のための国際シンポジウムを開催するとともに、(3) サテライト・オフィスでの公開講座などを通して研究成果を発信するという、3 つの事業を計画しています。

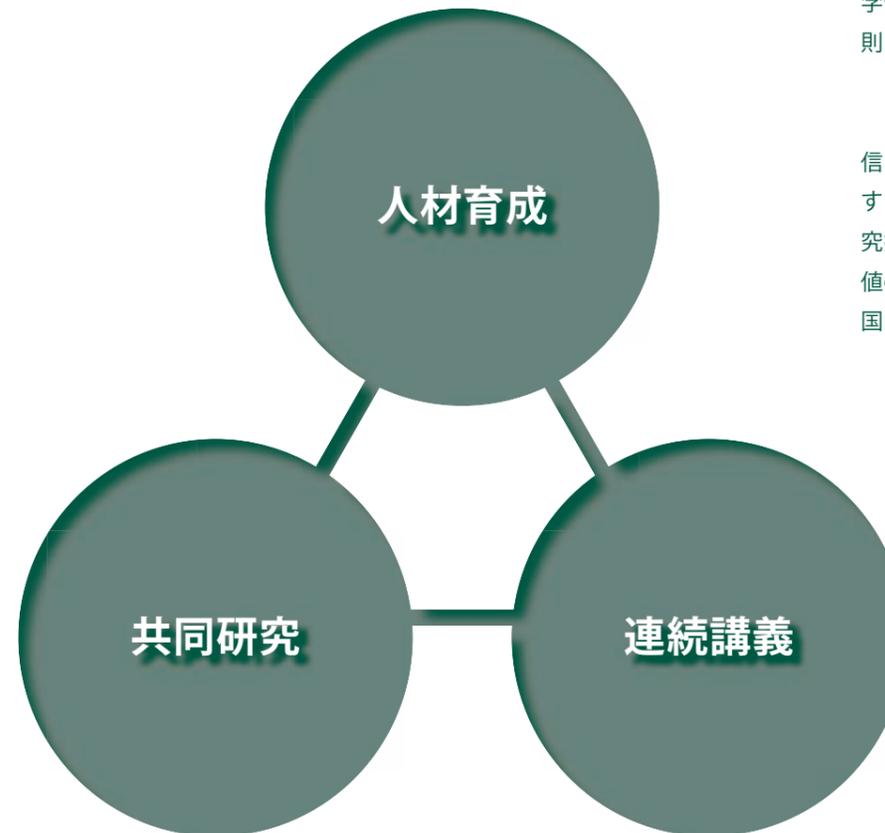
1) 課題研究の推進

防災ニーズが高く学際融合的な研究課題である、(1) 「都市の災害脆弱性診断と生活空間の再生技術・戦略に関する研究」および (2) 「防災情報の作成・伝達と災害リスクマネジメントに関する新技術の研究」を推進します。さらに、マルチハザードに対応する防災研究所の研究ポテンシャルをさらに向上すべく (3) 「大気・水を結合した流域の水・物質動態と地域密着型ハザードマップの作成」についても推進することになりました。

2) 若手研究員との共同研究を通じた人材育成と国際会議の開催

理工学分野の国内外の若手研究者はもちろん、人文、社会、情報科学など新分野の国内外の若手研究者との先導的な共同研究を行います。具体的には、(1) 国内外のポストドクレベルの期限付き COE 研究員の受け入れ (原則 25 名)、(2) 海外からの短期研究員との共同研究の推進 (原則 10 名)、(3) 大学院博士課程および博士課程進学予定の修士 2 回生を対象とした海外 1 ヶ月の留学 (原則 10 名)、をその内容としています。

これらの研究活動を支援し、研究成果の共有と情報発信のための国際シンポジウムの開催も計画しています。すなわち、各種共同研究の成果を広く発信することも研究拠点の重要な使命であることから、学術・応用上の価値の高き共同研究の成果について、年 2 件を目標として、国内で開催される国際シンポジウムを支援していきます。



京都および東京サテライトの開設と防災講座の開講

私たちが考える防災研究の推進のためには、防災研究者がすぐれた防災研究を行うことは当然として、こうした研究に対する国民からの理解と支援が必要と考えています。そこで、防災研究所での研究成果をできるだけ多くの人たちに知っていただく努力が必要と考えています。そのための基地として、京都駅前のキャンパス・プラザと東京有楽町の帝国ホテル東京で、防災研究所の関係者による公開講座の連続開催を企画しました。

100名以上の研究者を有するわが国最大の防災研究のメッカでどのような研究が行われ、どのような成果がえられたのかを所員の肉声で伝えたいと考えています。発表方法は所員に任せますが、すべてデジタルビデオで収録し、防災講演のデジタルアーカイブを構築し、将来インターネットを通してオン・デマンド方式で公開する予定です。それによって京都と東京のサテライトにご出席していただける人たちだけでなく災害や防災に興味を持っていただいている国民に対して広く情報発信できるものと考えております。

具体的に京都サテライト（JR京都駅前のキャンパス・プラザ）では、原則として毎週、火曜日から金曜日の4日間、午後6時半から8時まで開講します。東京サテライト（有楽町・帝国ホテル東京）では、原則として毎月第一、第三火曜日に、京都と同じ方式で運営する予定です。